

○ 草の根協力支援型

2016年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	インドネシア
2. 事業名	インドネシア中部ジャワ州の幼児教育におけるインクルーシブ教育実践モデル形成事業
3. 事業の背景と必要性	インドネシアは近年の急速な経済的発展により教育施策が充実し、学齢期以降のインクルーシブ教育の制度化が始まった。しかし根強い「障害の分離意識」の中で就学前の障害児に対する教育的支援は未整備である。ナショナル・グランドデザインに拠る今後の教育のために就学前インクルーシブは必須である。本事業はCBR-DTCとCERCの協働によりインクルーシブ教育の実践モデルを形成する。この取り組みが実践モデルになり、インクルージョン制度化への先駆けとなることを期待している。
4. プロジェクト目標	カラングニヤール県3郡内の6幼稚園において、『インクルーシブ教育実践モデル』が形成される。
5. 対象地域	中部ジャワ州カラングニヤール県3郡
6. 本事業の対象となる人々	幼稚園園長と教師、特別支援学校教師、県・郡の幼児教育担当官、郡の幼児教育監督官、対象幼稚園の園児とその家族、対象村の地域住民、CBR-DTC
7. 事業活動と期待される変化	<p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CBRDTC・CERCによる幼児教育監督官、園長、障害者の家族、特別支援学校教師に対するインクルージョンの仕組み作り（研修会、訪問助言、知識と方法の伝授） 2. CBRDTCによる対象地域における啓発活動（住民集会への参加、広報活動） 3. CBRDTC・CERCによる幼稚園への働きかけ（実践セミナーの開催、Storybook Curriculumの実践支援、指導助言、情報共有） 4. CBRDTC・CERCによる実践マニュアル作成、近隣幼稚園への配布、及び情報共有 <p><期待される変化></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業対象幼稚園教師（12名）が、インクルーシブ教育の実践技術を身につける。 2. 事業対象幼稚園教師（12名）と園長（6名）がトレーナーとして養成され、事業対象外の幼児教育関係者に、インクルーシブ教育実践モデルを広めている。 3. 地域住民のインクルーシブ教育の理解が向上する。 4. 本事業の「インクルーシブ教育実践モデル」が対象地域内において認められるとともに、情報が事業対象外に広まる。
8. 実施期間	2017年3月～2019年4月（2年1か月）
9. 事業費概算額	9,946千円
10. 事業の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアCBRDTCより現地担当従事者4名（事業調査員1名、事業ファシリテーター3名）研修時に現地講師若干名。 ・日本CERCからは事業管理者兼講師1名を定期的に配置、専門技術移転のために研修講師3名を短期に派遣。
II. 提案団体の概要	
1. 団体名	一般社団法人子ども支援チェルク（CERC）
2. 活動内容	子どもの支援事業、教育研修事業、人材育成事業、調査研究事業、国際貢献事業